

日光今昔物語

第二話

～ 古河橋 ～



古河橋(明治24年ごろ)



現在の古河橋

日本の近代化に大きく貢献した足尾銅山。古河橋はその歴史を伝える貴重な産業遺産として、市の文化財に指定されています。明治10年、足尾銅山の経営に乗り出した古河市兵衛は、次々に最新技術を取り入れ、産銅量を飛躍的に伸ばしました。鉱業所や精錬所、社宅などの施設があった本山区も銅山の中心地として急速に発展し、交通量が増大しました。その通行手段として、松木川(現渡良瀬川)に木

造の橋が架けられました。火災で焼失してしまいました。これを教訓に架けられた鉄橋が古河橋です。明治23年に完成したこの橋は、ドイツ製で長さ50m、幅4.6mのトラス式です。上の写真は銅山を抱え写真師、小野寄一徳が明治24年ごろに撮影したものです。架橋から約百年近くが経過した平成5年、下流側に新しい橋が架けられ、古河橋は往時のままに保全されています。

4月の人口と世帯数

人口	95,875人 (-273)
男	46,900人 (-138)
女	49,248人 (-135)
世帯数	35,883世帯 (+48)

※住民基本台帳による(4月1日現在) ()は前月比

4月13日(木)から17日(月)にかけて行われた弥生祭。日光地域に住む人にとって、春を告げるなくてはならないお祭です。4月に入ると連日、夜遅くまでお囃子の練習に励みます。16日(日)の宵まつりでは、多くの観光客が足を止めて花家体などに見入っていました。くわしくは、11ページをご覧ください。

今月の表紙



市のホームページを開いて1か月余り。広報紙の編集に追われながらも、ようやく更新ソフトの操作に慣れてきました。

とはいえ、まだまだ情報量が少ないのが現状です。特に観光情報は、さらに充実させていかなければなりません。そこで、それぞれの地域のことを勉強しようと、手に取ったのが「足尾博物誌」。足尾町の閉町を記念して発行されたものです。豊かな自然や地元の特産品、銅山の歴史、そして町の歩んだ軌跡が紹介されています。そこに書いてあるのは、私の知らないことばかりでした。ホームページで5つの地域を網羅するには一体どのくらい時間がかかるのかと気が遠くなってしまうそう…。しかし、ここは気を引き締めてがんばらなくてはと思います。

今後、外国語ページや携帯端末用ページも公開する予定です。まだホームページを見ていない方は、ぜひ一度ご覧ください。(大)